

◆ sempre espressivo e cantabile! ◆

「まん延防止等重点措置」が延長された状況下ではあるけれども、2月1日のこのメッセージで触れた本校吹奏楽部の定期演奏会。感染症対策を講じながら、3月21日（春分の日）に何とか開催する方向で準備を進めている。

思い起こせば去年の秋頃、部活の生徒たちが校長室にやってきた。『たなばた』（正式な作品名は「The Seventh Night of July」）。一昨年の7月7日、8月20日、昨年の3月23日のメッセージをご覧ください）を振って欲しいという。

この作品、作曲者の酒井格さんが高校生の時に作られたとのこと。美しくも切ないメロディーが途切れることなく続く。曲のそこかしこに、どこかで聞いた懐かしいフレーズがちりばめられ、中間部のアルトサックスとユーフォニアムの旋律は、よく織姫と彦星に準えられる。起承転結が際立ち、高校生の感性に強く訴えかける曲想のように思う。

今回の演奏会の中心メンバーとなる2年生は、入学早々、臨時休校のため部活動を含めた多くの学校生活に大きな影響が出た子どもたちである。その後も、緊急事態宣言等の発出のたびに、多くの制限が加わった。懸命に活動に励んできたが、如何せん以前はできていたであろう通常の練習が叶わない。今回の演奏会も、OBの皆さんの支援を得ながら、手探りの中で準備を進めてきた。彼らの心中を察するに、本当に辛いものがある。

その彼らがやって来た際に、こう話をした。

「この曲は、最初から最後まで sempre espressivo e cantabile! でいこう。」

部員間で共有されたらしく、果たして最初の合奏の際に彼らからこの言葉が返ってきた。皆が同じ方向を向いて取り組んでくれていることをとても心強く思った。

まだまだ思っているような『たなばた』ではないけれども、最後までcantabileを目指す。

さて、子どもたちにはこの“espressivo”について、秘密の合言葉を伝えてある。その思いが演奏で表現できるか、今からとてもワクワクしている。

